沖縄県教員採用試験

対策ポイント（1次試験篇）

今年度の教員採用試験で、大学での対策のみで現役合格（高校・国語）した TA が、教員採用試験を乗り越えるためにどのような対策をしていたのか、ご紹介します。今回は１次試験の教職教養について、筆者の対策方法とそのポイントをまとめました。あくまで筆者自身が行った対策ですので、参考までにご覧ください。

① 大学で開講している講座で経験値を積む（資料収集も）

琉球大学では複数の教員採用試験対策講座を無料で受講することが出来ます。私は以下の 2 つの講座と、学部の先生が個人的に開講してくださっている講座の 3 つを、用途に合わせて掛け持ちして受講しました。

① 琉球大学同窓会の講座（水曜日 6 限）→過去問対策
② キャリア教育センターの講座（金曜日 13：00～17：00）→主に教職教養（資料のみ受け取り）
③ 学部の先生の講座→専門科目対策・沖縄県の施策など

これらの全てを受講する必要はありませんし、資料のみ受け取ることができる講座もあるので、自分のスタイルに応じて講座を選択してみてください。

ポイント
「教職教養は大量の問題からパターンをつかむ」
教職教養では似たような単語ばかりが選択肢に並びます。大量の問題をこなすことによって、出題傾向と選択肢の言葉選びの傾向がつかみやすくなります。特に、教育法規などは近似した言葉遣い（「～的」や「～性」）が多いので、それぞれの違いに着目してみると覚えやすいかと思います。

② 出題頻度の高い不得意分野の学びなおし

大量の問題をこなすことで、何となく自分の得意な分野・不得意な分野が判明したと思います。私の場合は不得意な分野の中でも、毎年出題される教育史や教育倫理を優先的に学びなおしま

した。また、教育法規についても、最近改正されたもの（出題されやすい）を中心に勉強しました。

不得意分野においては、量をこなす勉強法ではどうしても人物名とその功績が覚えられませんでした。そこで、不得意分野をあえて一手間かけて覚えてみようと思い、下記のような「教育史の人物覚えよう計画」を立案しました。

① 重要人物や教育倫理の単語について情報を集める。試験には出ないであろう、プチ情報も調べる。
② 調べた情報を紹介するスライドを作成。画像を貼ったり、オリジナルの解説文を載せたりして、自分がわかりやすいようにカスタマイズ。
③ 完成したスライドを何度も見返したり、情報を追加したりする。（時間の都合で、私はこの段階までは行けませんでした…）

図１「教育史の人物覚えよう計画」スライド例

画像やデザインによって視覚的情報が増加したため、問題を解く際にも「あのスライドの人か！」と思い出しやすくなりました。

他の受験者の中には、以下のような方法で苦手分野を克服した人もいました。
・覚えられない部分を音読し、録音した音声を移動中の車内で聞く
・ノートに手書きでまとめる

ポイント
「自分に適したインプット方法を見つける」
私は見て覚える（視覚）ことが多いですが、上記のように、声に出したり（聴覚）、紙に何度も書いたり（体感）する方が覚えやすいという人もいます。自分に適したインプット方法を把握しておくと、より効果的な試験勉強につながるかもしれません。

最後に
学生での受験は、学業との両立が難しく、十分に勉強時間を取ることが出来ない人も多いと思います。少しでも皆さんの試験勉強の負担を軽減できれば幸いです。
次回は 2 次試験で行った対策について、ご紹介いたします。